

産地戦略

実施主体 阿波市みどりの食料システム推進協議会
 都道府県 徳島県
 対象地域 阿波市
 対象品目 レタス等葉茎菜類

実施期間 令和7～11年度



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
● 有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

阿波市では、令和5年3月に策定した、阿波市農業振興計画に基づき、環境に配慮した農産物の生産手法や環境負荷低減への取組を推進し、低コストで省力的な農業経営の実現とともに消費者の環境保全型農業への理解と認知度向上に取組み、農業者と消費者が一体となった持続的な産地形成を進めていきたいと考えている。また、有機農業の実践・普及には、農産物の安定供給に必要な技術確立、農業者や消費者の理解等基盤づくりが必要である。

そこで、有機農業をはじめとする環境に配慮した農業の浸透を図るため、先進地の視察や技術研修会の開催などを実施するとともに、有機JAS適合資材の活用や地域の堆肥・有機質肥料の活用、防虫ネットを活用した物理的防除、さらには省力化に資する自動操舵システムの導入を進め、有機栽培に向けた土づくりや有機質資料を主体とした栽培体系の構築、実証を行う。また、消費者と農業者が意見交換できる場を設け、生産へのこだわりや想い、消

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名					●●	△	○						●：たい肥の投入、△：定植、○：収穫
技術名					たい肥の投入	必要に応じて化学農薬での防除							

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名					●●	△	○						●：たい肥の投入、△：定植、○：収穫
技術名					たい肥の投入	防虫ネットのトンネル被覆							
					有機質肥料の投入 自動操舵システムでの軌立								

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	24	▶ 25	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	0.2	▶ 2	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	1.1	▶ 2	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	0.2	▶ 2	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学肥料の施用	▶ たい肥及び有機質肥料の施用	化学肥料の使用量減少
省力	－	▶ 自動操舵システムの導入	作業時間の減少
環境省力	化学農薬による防除	▶ 防虫ネットを活用した栽培	化学農薬の使用回数の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
			▶	
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

消費者と生産者の両者に対し、有機農業をはじめとした環境保全型農業を周知するために、チラシを作成、配布する。
講習会等でたい肥の施用について周知する。

関係者の役割

関係者名	農業協同組合	市役所	生産者	徳島県
役割	農業者との調整、技術指導	事業実施手続き	実証ほの管理、技術の検証	事業のコーディネート、技術指導

事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

農業機械名	作業内容	活用面積（R6）（ha）	備考
自動操舵システム	耕耘、畝たて	2	

生産物の販売方法、消費者理解の醸成の取組等

阿波市シティハーフマラソンとあわせて有機農業PRイベントを実施した。イベント内で、消費者に有機農業とは何か、有機野菜に興味があるか、アンケート調査を行った。さらに、有機農業に関するパネル展示や実際に有機栽培された野菜を展示し、PRした。

その他